GHGプロトコルAMI*部会での議論

*Actions and Market Instruments (アクションとマーケット手段)

2025年11月25日

川又　広実
一般社団法人日本鉄鋼連盟
GHGプロトコル 技術ワーキンググループ AMI 部会 メンバー

© The Japan Iron & Steel Federation, All Rights Reserved.

AMI*作業部会の目的
Actions and Market Instruments (アクションとマーケット手段)

以下により、コーポレート排出量および関連影響に関する**包括的かつ透明性の高い**算定・報告を推進する

- コーポレートGHG排出量報告の**構造**（目的および各要素の限界を含む）の**明確化**
- コーポレートGHG排出量報告の各要素におけるアクションとマーケット手段の**適切な役割の特定**

コーポレートGHG報告におけるアクションとマーケット手段の影響に関する算定・報告

他のGHGプロトコル基準・ガイダンスに基づく基準**及び／又はガイダンス**の構築

GHGプロトコル作成公開資料より仮訳・一部加筆

© The Japan Iron & Steel Federation, All Rights Reserved.

マーケット手段の一例：GXスチール

GXスチールは、鉄鋼メーカーの温室効果ガス削減効果を特定の鋼材に反映したものです。

GXスチールの供給方法には以下の2通りがあります。

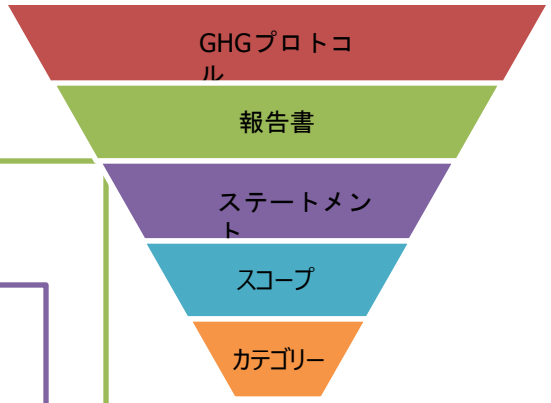
①組織内の削減実績量を任意の製品にマスバランス方式により配賦し、削減証書とともに供給する方法（GXマスバランス方式）
GXマスバランス方式を適用したGXスチールを購入したお客様は、当該鉄鋼製品の組織レベル（スコープ3カテゴリー1）、製品レベルでの上流排出量の削減を主張するために削減証書を利用が可能です。

②組織内の削減実績量の範囲で製品の排出量を配分し、低CFP製品を提供する方式（GXアロケーション方式）
GXアロケーション方式を適用したGXスチールを購入したお客様は、当該鉄鋼製品のCFPを組織レベル（スコープ3カテゴリー1）、製品レベルの算定に利用可能です。

GXスチールガイドライン・関連ガイドライン：一般社団法人日本鉄鋼連盟

© The Japan Iron & Steel Federation, All Rights Reserved.

現状の報告構造



GHG排出量報告

インベントリ

- スコープ1
- スコープ2 ロケーションベース
- スコープ2 マーケットベース
- スコープ3

帰結的手法 (プロジェクト算定)

- プロジェクトのインパクト
- クレジット

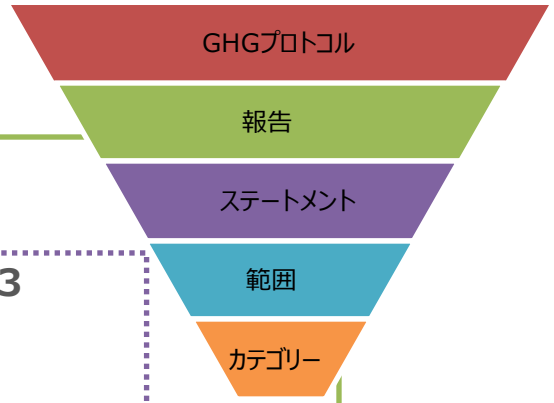
追加的報告情報
（例：事業部門別に細分化されたデータ）

GHGプロトコル作成公開資料より仮訳・一部加筆

© The Japan Iron & Steel Federation, All Rights Reserved.

報告構造改定案(マルチステートメント報告構造)の一例

議論初期の議論用事務局素案



GHG排出量報告

ステートメント1
フィジカルインベントリ

- スコープ1
- スコープ2
- スコープ3

ステートメント2
マーケットインベントリ

- スコープ1
- スコープ2
- スコープ3

および/または

ステートメント3
インパクト

- バリューチェーン内
- バリューチェーン外

点線囲みは現状の報告構造でカバーされないアイテム

GHGプロトコル作成公開資料より仮訳・一部加筆

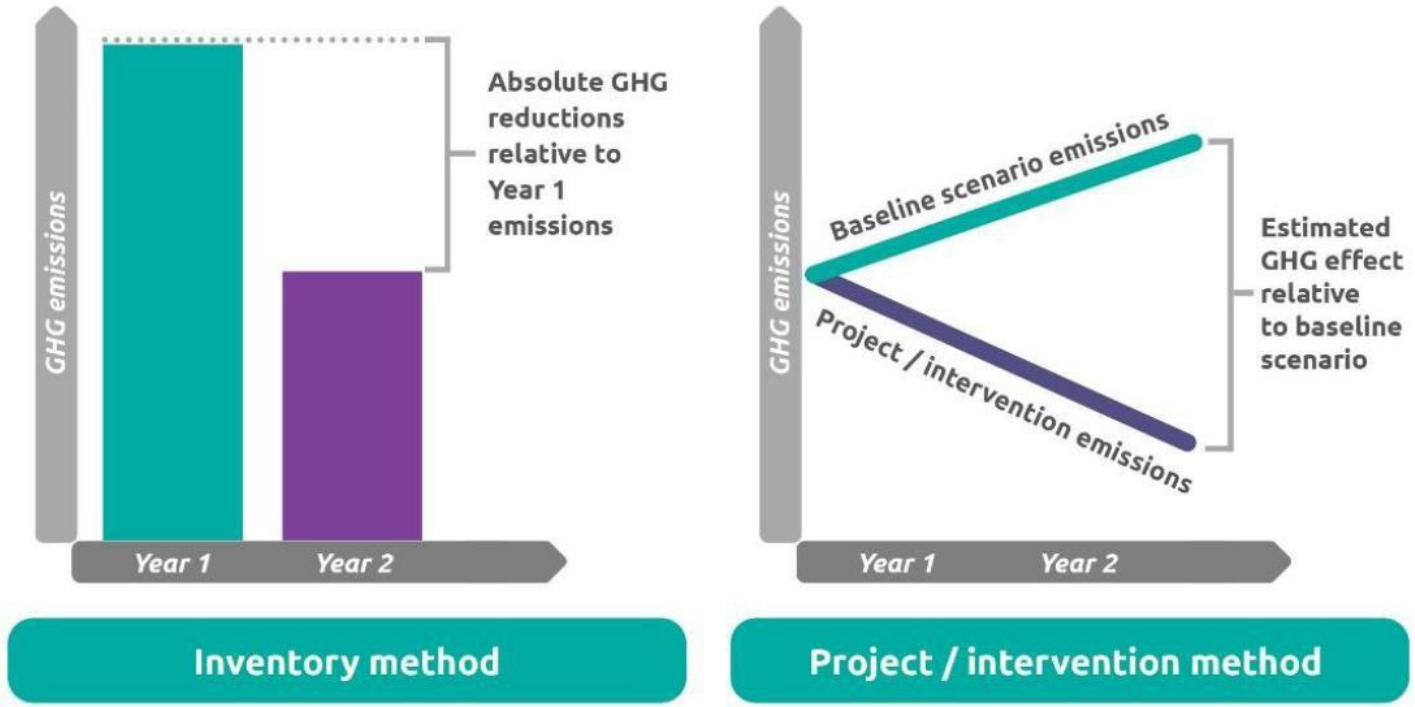
© The Japan Iron & Steel Federation, All Rights Reserved.

GHGプロトコルは、インベントリ算定・プロジェクト／介入型算定の両方に対する基準を提供している

- **インベントリ算定（帰属型LCA）**
  - 定義されたインベントリ境界内で、基準年に対して、時間経過に伴う温室効果ガス排出量と吸収量を追跡する

- **プロジェクト／介入型算定（帰結的LCA）**
  - 特定のプロジェクト、行動、介入が温室効果ガス排出量または吸収量に与える影響を、反実仮想(counterfactual)ベースラインシナリオに対するシステム全体の温室効果ガス影響を推定することで定量化する

Figure 11.3 Comparison of inventory and project or intervention accounting methods



GHGプロトコル作成公開資料より仮訳・一部加筆

© The Japan Iron & Steel Federation, All Rights Reserved.

AMI作業部会作業計画

- **フェーズ1 – 報告構造、要素および定義　~2025年**
  - コーポレートGHG排出量報告内の個々の要素の目的、構造、および制限事項を明確化および／または定義する
  - アクションとマーケット手段の影響に対処するために必要な追加報告要素および関連する定量化手法を決定する

- **フェーズ2 – 新規報告要素の技術開発　2026年～**
  - 既存基準からの関連ガイダンスを統合する
  - 必要に応じて追加の算定・報告基準、セーフガード及び要件を開発する
  - プログラム及び政策立案者向けガイダンスを開発する

GHGプロトコル作成公開資料より仮訳・一部加筆

© The Japan Iron & Steel Federation, All Rights Reserved.